



ソソラホール・市民創造フォーラム

市民会館の 新しい扉を開く

令和4年12月17日（土）午後2時
中野市中央公民館 講堂

リノベーションする市民会館

- 昭和44年建設 建築から50年以上が経過
- 耐震不足、老朽化、機能低下などの課題解決のため、大規模改修により長寿命化する「リノベーション」を実施
- 2024（令和6）年 春ごろ 開館予定
（コロナ、ロシア・ウクライナ情勢などの影響により、当初の予定を変更）
- 愛称は「ソソラホール」に決定



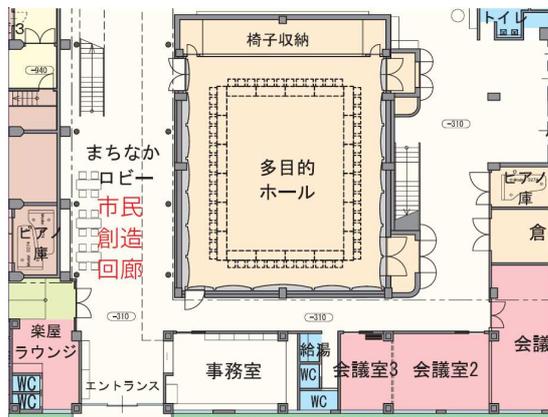
大ホール（800席） 多目的ホール（平土間） 市民創造回廊（展示ギャラリー・ロビー）
音楽スタジオ リハーサル室 会議室 ストリートピアノ キッズコーナー

大ホール

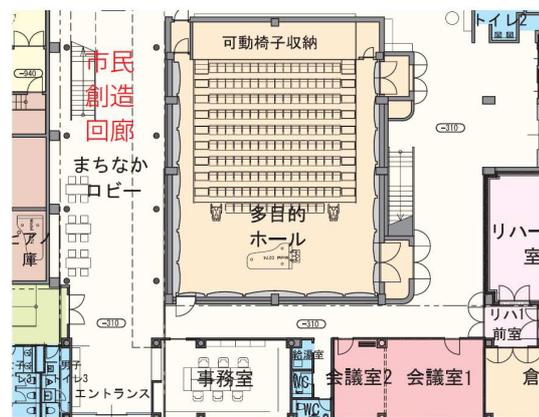


多目的ホール

平土間利用



段床利用



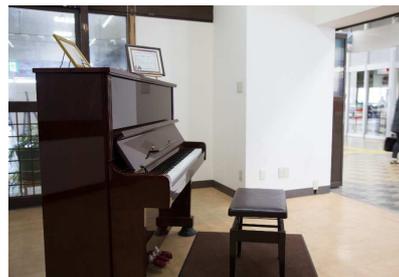
市民創造回廊



音楽スタジオ



ストリートピアノ



キッズコーナー



市民会館の「これまで」と「これから」

これまでの市民会館



自主事業を行っていない
貸館施設

これからの市民会館



自主事業を中心とした文化・芸術の拠点
たくさんの皆さんが集い創造し
さまざまな活動を自由に展開する場

市民会館の事業展開コンセプト

うきうき

感動舞台・多文化体験事業

優れた舞台芸術を国内外から招聘し、多様な文化にふれ、共感・感動を肌で体験し、感性あふれる豊かな心を育みます。
また、それらを促進する教育普及事業と文化芸術による創造都市づくりに向けた事業を実施します。

わくわく

市民参加・創造発信事業

音楽、演劇、ダンスその他のさまざまな文化芸術活動に、老若男女、たくさんの市民が参加できる多様なプログラムを実施します。
また、市民の創造活動から生まれた成果を広く市内外に発信します。
あわせて市民の自主的な文化芸術活動の支援を行います。

いきいき

出会いふれあい・共生事業

コミュニティ（地域社会）の拠点として、また、新しい広場として、市民の皆さんが集い、ふれあい交流できる開かれた場づくりを進めます。
また、学校、福祉施設その他のさまざまな団体・機関と連携協働し、共生社会に向けた社会包摂型のプログラムを実施します。

社会包摂…市民一人一人を、排除、孤立から守り、社会の一員として取り込み、支えあう考え方のこと。SDGsの「誰一人取り残さない」と同義

ソソラホールのオープンに向けて

リニューアルコーディネータの配置



水戸 雅彦 前・えずこホール（仙南芸術文化センター）館長

1956年宮城県生まれ。1996～2020年まで仙南芸術文化センター（えずこホール）勤務、2016～19年館長。住民参加型事業、アウトリーチ事業、社会包括型事業に取り組む。20年間に、ホールほか地域内外の学校、福祉施設等250か所以上で1,000回のアウトリーチと700回のワークショップを開催、約8万人が参加した。2007年えずこホールが財団法人地域創造JAFRAアワード(総務大臣賞)受賞。宮城県文化芸術振興審議会委員(2005年～2020年3月)、2020～21年長野県まつもと市民芸術館芸術監督補佐。全国公立文化施設協会コーディネーター。エフエムいわぬま(宮城県)「Mitoイムズ」パーソナリティ。

信州なかのクリエイティブミーティングの開催

専門家やアーティストから文化芸術についての様々な取り組みやプログラムを学び体験しながら、市民会館で取り組む企画事業などを市民の皆さんと考える会合。オープンに向けたプレ企画について、アイデアを出しあう。

全8回（これまでに7回開催）
次回最終回 令和5年1月24日（火）予定



▲これまでの様子を
ご覧いただけます

ソソラホールのオープンに向けて

市民創造フォーラム「市民会館の新しい扉をひらく」

講師 藤浩志さん 美術家 秋田公立美術大学教授 秋田市文化創造館館長

奄美大島出身の両親の影響で大島袖周辺で遊ぶ。京都市立芸術大学在学中演劇活動に没頭した後、地域をフィールドとした表現活動を志し、全国各地の現場でプロジェクト型の表現を模索。同大学院修了後/バブアニューギニア国立芸術学校に勤務し原初的表現と社会学に出会い、バブル崩壊期の再開発業者・都市計画事務所勤務を経て土地と都市を学ぶ。「地域資源・適性技術・協力関係」を活用したデモンストレーション型の実験型美術表現により「対話と地域実験」を実践

・ 講演「さまざまな境界を越えて」

- ・ 報告「信州なかのクリエイティブミーティングで市民の皆さんと考えたこと」
- ・ 意見交換

